

第46回

「地球温暖化」をはじめとする環境問題がますます身近になる一方で、世界の国々が賛同できる国際枠組みの構築は困難な状況にあります。

このような状況下で対策が急がれる中、国際社会はどのように取り組むべきなのでしょう。

CSRの最先端アメリカでの実体験をもとに日本企業向けのCSRコンサルティングを行うコーポレートシチズンシップ代表の雨宮氏から世界で行われている地球環境問題解決への取り組み等について、ご紹介いたします。

コーポレートシチズンシップ 代表取締役 雨宮 寛氏



今年のハーバード・グリーン・カーペット・アワード

少し前になりますが、今年もハーバード大学で環境に優しい取り組みや省エネに通じる活動などを称えるグリーン・カーペット・アワードが開催されました。このアワードの対象は、ハーバード大学を構成する大学、大学院、医療などの研究機関、図書館、美術館、博物館などで、学生、教職員が独自の取り組みを申請します。今回は、このアワードの中で、参考になりそうな取り組みについて紹介したいと思います。

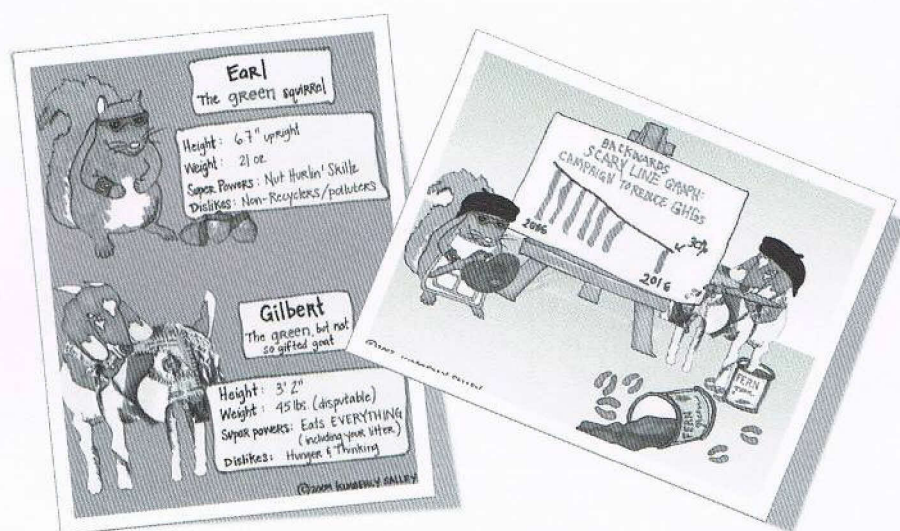
今回のアワードは4部門で構成されていました。エネルギーと排出部門では、ハーバード大学公衆衛生大学院の取り組みが選ばれました。同大学院はキャンパスにある4つの建物の自動システムの見直しを一斉に実施しました。この見直しの期間中、4つの建物は、普段通りに使用されていました。既存の建物を利用したまま、システムの見直しを実施し、そして、エネルギー効率の改善を行ったことが高く評価されました。具体的な一斉見直しは、4つの建物にある壁45面と4000を超えるの器具等をアップグレードしました。この改善により、年間の運営費用を40万ドル程度節約することが可能となりました。これは年間運営費用の約25%に相当する額になります。また、672メートルトン相当の二酸化炭素の排出を抑制することが可能となりました。このように、既存の建造物を改善することによって、エネ

ルギー効率の向上を実現した良い事例となりました。

同じくエネルギーと排出部門で選ばれた興味深い取り組みを紹介します。マサチューセッツ・グリーン・ハイパフォーマンス・コンピューター・センターです。このセンターはボストンから150キロほど西方にある、マサチューセッツ州中部のホールヨーク市にあります。3.48ヘクタールの敷地に3万5000平方メートルの床面積を有するセンターです。このセンターは、マサチューセッツ州、ハーバード大学、そして4つの研究機関が共同で運営しています。同センターは高度な演算処理を日夜実施しているため、エネルギー効率の向上が当初からの課題でした。このたび同センターが入る建物は米環境性能評価システム（LEED）からプラチナ評価をされており、これまでの建物と比較して、エネルギー使用量が43%、水使用量が35%削減となる計画です。水力発電からの電力が部分的に利用されている同建物は、エネルギー・メーターや試運転機能、そして、灌漑設備を必要としない立地等の特色があります。最近の事例では、宇宙のビッグバン理論や起源を解明する分析に必要な510万CPU時間（コンピューターの中央処理装置（CPU）稼働時間^{*1}）のうちの300万CPU時間を同センターで実施しました。この事例は、ハーバード大学が複数の研究機関と協力し、地元社会への環境負荷を軽減しながら世界的な研究・教育への貢献を可能とする良い例です。

行動変化の部門からは、同窓会&グリーン開発チームが選ばれました。約40人のメンバーで構成される同チームは、約320人のサポーターの協力を得ながら、ハーバード大学のサステナビリティ目標達成に向けて取り組んでいます。毎月、同大学の大学や大学院に訪れ、同チームのマスコットであるリスのアールと羊のギルバートを使ったグリーン漫画を使いながら、「今月の持続可能に通じる行動」を啓蒙しています。この活動を通じて、2008年以降の紙コップ使用量は75%減りました。また、大リーグのボストン・レッドソックスの試合でリサイクル活動をしています。さらに、徒歩、自転車、公営地下鉄（愛称をT（ティー）といいます）で移動しよう、という運動を行っています。

（アールとギルバートのグリーン漫画）※2



最後にご紹介したい取り組みは、同じ行動変化部門で選ばれたハーバード大学エッガン研究所です。この研究所では、研究で発生する廃棄物削減の取り組みを見直しました。プラスチック製の使い捨てピペット（液体や気体を扱う化学実験器具）からガラス製の無菌ピペットを使用することを決定し、今後約4万ドルの購入費用の削減につなげることが出来ると見積もっています。さらに、プラスチック製の使い捨てピペットの使用を止めることは、年間を通じて使用していた22万6000に上る使い捨てピペットの廃棄が無くなることになります。このことは、使い捨てピペットが入っていた紙製のパッケージ376キログラム分の廃棄が無くなることにもつな

がります。このようにガラス製のピペットに移行することで環境負荷が減らすことができることから、他の研究所も同様の取り組みを行う動きが出てきました。

今年のグリーン・カーペット・アワードで選ばれたのは、大学や研究機関などの専門組織レベルで10件、学生団体や学生の取り組みとして7件ありました。今回から同アワードは2年に1回開催されることになりました。2016年の同アワードではどのような環境に貢献する事例が選ばれるのでしょうか、今から楽しみです。

※1 IT用語辞典e-Words

<http://e-words.jp/w/CPUE69982E99693.html>

※2 グリーン漫画の作者キンベリー・クラーク氏の紹介記事から

<http://wheatoncollege.edu/blog/2013/kim-salley/>

略歴

コーポレートシチズンシップ代表取締役。DWMアセット・マネジメント：DWMインカムファンズおよびスワンクキャピタル日本代表。明治大学公共政策大学院兼任講師。CFA協会認定証券アナリスト。NPO法人ハンスオン東京理事。コロンビア大学ビジネススクール経営学修士およびハーバード大学ケネディ行政大学院行政学修士。クレディ・スイスおよびモルガン・スタンレーにおいて資産運用商品の商品開発を担当。2006年コーポレートシチズンシップを創業。「あなたのTシャツはどこから来たのか？」（ビエトラ・リボリ著 東洋経済新報社）「暴走する資本主義」（ロバート・ライシュ著 東洋経済新報社）「ジェンガ 世界で2番目に売れているゲームの果てなき挑戦」（レスリー・スコット著 東洋経済新報社）などを翻訳。「アショカDVD・社会起業家シリーズ」監修。